



秋空・喚声・笑顔

10月2日、小学校で「秋の大運動会」が開かれました。

9月の末には、台風が来るなど、前日までは不安定な天候が続き心配されていましたが、当日は、これ以上ないような、まさに“運動会日和”。

この日の天候は、連日のように練習を重ねてきた子どもたちにとって、最高のプレゼントとなりました。



広報 ひがししらかわ

1994 10 No.400
平成6年

人口の動き

—9月末住民登録人口から—	
世帯数	908世帯
人口	3,412人
転入	3人
転出	6人
出生	1人
死亡	1人
先月と比較して	3人減
昨年同月と比較して	28人減

石を訪ねて…

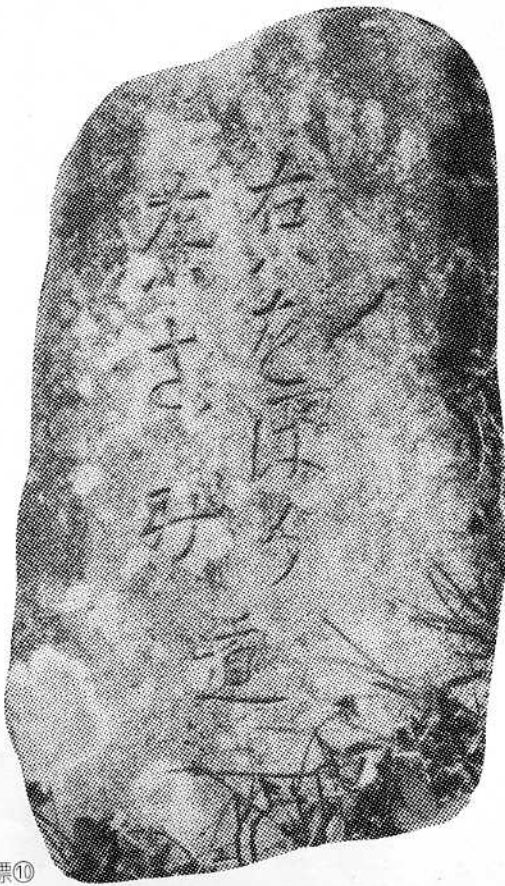
我が輩は石である。ひとことと

石と云っても石にあらざるものなレインレイン

したもののかり川にある丸い石まで

いらいあるが、何千年も昔から

人間との生活にかかわっているのです。



右ハをっばら
左ハさみ道

道標⑩



まだ使われている“漬物石”
もう見られない板屋根の石

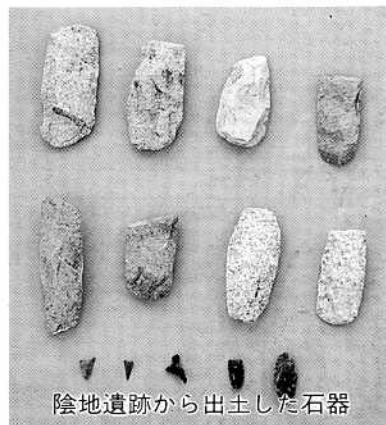


板屋根、(瀬音公園水車小屋)

人が“石”とかかわりを持つようになったのは、いつのころでしょうか？ 人類の文化の歴史をみると、いわゆる原始時代の中でも石器時代、青銅器時代、鉄器時代があり、石は最も古くから人とかかわりを持ってきました。昨年、陰地遺跡の発掘調査で、縄文中期（今からおおよそ三千年くらい前）の住居跡が発見され、この村で最も古いものであることが確認されましたが、縄文時代はその大半が、狩猟や採集による食生活ですから、そのための道具として石が使用されました。それを裏付ける出土品として陰地遺跡からは、石鏃（矢じり）や石斧（土掘り具）などの石器がたくさん出土しています。石の特徴といえば“重いこと”、“堅いこと”、“丈夫なこと”の三つです。この特徴を生かして石は多方面に利用されています。例えば

漬物石。

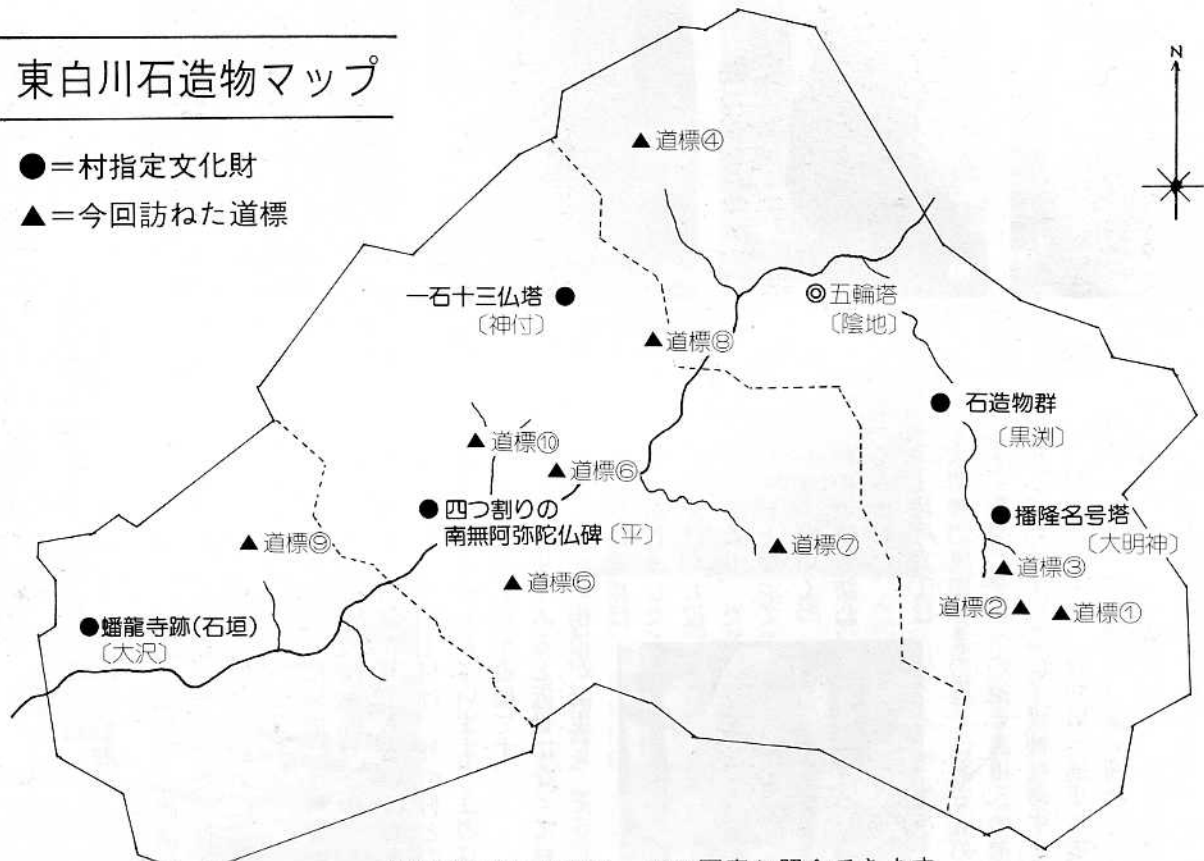
商品化したものはありますが、「この微妙な重みが…」という人はたくさんみえると思います。最近お目にかかることが少なくなったものに“石臼”があります。白には、搗き臼と磨り臼があり、搗き臼は今も餅つきに使うご家庭もあるでしょう。変わったものでは、瓦屋根の普及で姿を消した板屋根があります。これには“押さえ”といって平たい石が重しに使われました。また、先人は石に文字を刻んだり、石そのものから神像や仏像を作り、それを残すことも考えました。これが神仏の石造物です。中には石そのものに神さまが宿ると考え、その石を祀り信仰している例もたくさんあります。村の文化財の中にも次ページのように五本の石造物が指定を受けています。



陰地遺跡から出土した石器

東白川石造物マップ

● = 村指定文化財
▲ = 今回訪ねた道標



※道標の番号は次ページの写真と照合できます



東白川村の石は 材質が堅い

教育委員会が、昭和五十八年と平成元年の二回にわたり発行した「東白川村の石造物」第一集、第二集によれば、現在村内で確認されている石造物は、文化財の指定を受けている五点も含め六十九点、そのほとんどが神仏や信仰などに関連する石造物です。

地質学の上から村を眺めてみると、村は「濃飛流紋岩類」に覆われています。これは火山の噴火の際、噴出した火山灰や軽石などが長い年月をかけ流れ下ってできた堆積物。この範囲は、北は富山県小矢部川上流から南は中央アルプス最南端の恵那山付近まで北西から南東の方向に広がって分布し、距離にして約百三十きに及んでいます。この岩質は非常に堅いものだと、村の石が非常に堅いという話について、東白川村文化財審議会委員で「東白川村の石造物」の編集にも携わった平の伊藤重雄さんは、こんな話を聞かせてくれました。「東白川村の石の質は、非常に堅い。例えば四つ割りの南無阿弥陀仏碑には、こんな話が残っています。このあたりで石碑などに使ういわ

ゆる「青石」というものがあまりに堅いため、当初碑文を刻むために関西方面から招かれた石工の使うノミでは、刃が立たなかった。そこで長野県の高遠から石工が招かれたんです。あの碑は、南無阿弥陀仏の六文字の一文字づつに米が一升入るように刻まれており、昔は「ごいっしゅうさま」と呼ばれていました。高遠の石工の高い技術が作ったまさに芸術品でしょう。高遠のあたりの石の質が東白川村の石の質と良く似て堅いため、その石工が選ばれたのではないのでしょうか。

明治新政府のとった「神仏分離令」により、当時苗木藩下にあった村は、「廃仏毀釈」を余儀なくされました。その悲惨さを物語る四つ割り碑のもうひとつのエピソードでした。

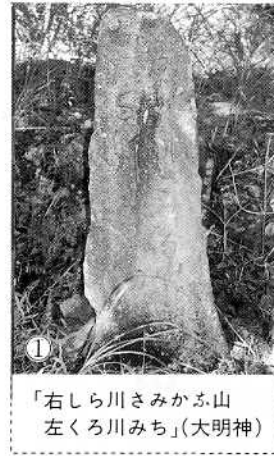
り、東白川村文化財審議会委員で「東白川村の石造物」の編集にも携わった平の伊藤重雄さんは、こんな話を聞かせてくれました。「東白川村の石の質は、非常に堅い。例えば四つ割りの南無阿弥陀仏碑には、こんな話が残っています。このあたりで石碑などに使ういわ



廃仏毀釈の逸話を残す四つ割り碑



道行く人たちを 勇気づけた“道標”



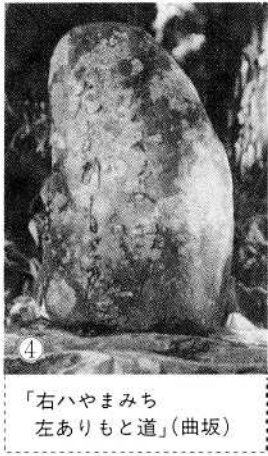
①「右しら川さみかふ山
左くろ川みち」(大明神)



②「右ハむら
道」(大明神)
左ハつけち



③「右くろ川
出合せし
左つけち」(大明神)



④「右ハやまみち
左ありもと道」(曲坂)

石造物は、神仏に關係する碑ばかりではありません。かつて人々の行き来に大きな役割を果たしたものに「道標」があります。

原始時代の人々は、道に迷わないよう行く先々の木の枝を折ったり、木の幹にきずを付けたり、あるいは石を積むなどして目印を付け、外の村との往来をしたといわれています。この目印が発展したものが道標です。

村の歴史をみると近世になって村にもいくつかの街道が誕生し、そうした街道筋に道標は建てられました。

今では、お役ご免となり、ただの石となってしまうたいくつかの道標を訪ねてみました。

上段写真①は、大明神の庚申さまの近くにあるものです。佐見、金山への道と黒川への道を示しています。②は子護神社のすぐ下で見付けたもの。付知町へ通ずる道を表しています。③は、丸五商店近くにあるもの。この道標には、これを経てた世話人の吉助ほか二十七人の名前と寄付金額が刻まれています。



⑤「みざくろ川
ひだりやま
道」(平)

④は、曲坂の林道にある道標です。鳥屋峠から佐見有本へ通じる道を示すものですが、「右ハやまみち」と、道に迷って山道に入らぬよう語りかけています。この道標は、「道坊主」と親しまれたものとか。

⑤は平中河原の道標です。黒川への道を示すものですが、これも間違えて山道へ入らぬよう語っています。

⑦は、現在下親田の伝承の館入り口にあるもので、黒川への道と大明神を経て付知への道を示しています。

⑧は、神付の基幹農道にあるもので

風化がひどく読みづらいですが、金山と兼山への道を示したものです。

⑨は柏本の林道にあるもの。佐見への道を示しています。また、前ページの

⑩は、西洞にあるもので越原への道と桜峠を越え佐見への道を示したものです。

街道とはいえ山間地帯では、尾根づたい、峠越えなど複雑な道がたくさんあるうえ山道がほとんどですから、昼でも薄暗いような道がたくさんあったことでしょう。そんな心細い道中で通行人を勇気づけたのが道標なのです。

おじいさんが、今の位置に移動

「この道標は、今のくろいぬやの店のあたりがまだ畑だったころそのかどにあったものを道を広めるときおじいさんが、捨てられてはいかんで」とこの庭へ運んできたもんですよ」と話してくれたのは田口ふでさん(平)。

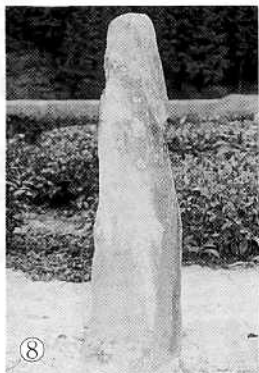
現在田口さん宅の庭にある道標には、「右ハむらミち左リ加志も道」と記されており、昔越中富山の薬商が建てたものだそうです。



⑥



⑦「右ハくろ川
左ハつけち
ミち」(下親田)



⑧「みざかな山ミち
ひだり加ね山ミち(神付)



⑨「右ハやまみち
左ハ佐見みち」(柏本)



貴重な文化遺産を

残したい

いろいろな角度から石を見てきました。石の利用でもう一つ私たちの生活に大きなかわりを持つたものに「石垣」があります。

「いしがき」と読むのが正式ですが、村の方言では「いしかけ」として親しまれています。

基盤整備によって最近はその数もかなり減ってはいますが、平地が少ない私たちの村では、緩斜面を平地化して耕地にするために石垣は必要不可欠でした。



平高橋近くの石垣

石垣は、同じ大きさの石を一直線に積んでいく「整層積み」といろいろな大きさの石をそれぞれの石の形に合わせて積み上げていく「乱層積み」の二種類に分けられます。村内のほとんどの石垣は、切石を使用しない「乱層積み」です。



宮代安江辰也さん宅裏の石垣

左上の写真は、宮代の安江辰也さん宅裏の墓地の石垣です。村内では珍しいもので切石を使用して整然と積まれています。伊藤重雄さんの話では、この石垣も大沢の蟠龍寺跡の石垣同様、長野県高遠の石工の手によるものでかなり古いものかと。また、平

は、昔は石垣までの水位によって水量を見ていたようです。大昔から私たちの生活と深くかかわ

ってきた石造物。そのほとんどが役目を終え静かにたたずんでいます。この貴重な文化遺産を村の風物詩として残したいものです。



宮代の石垣

文字以前の文字神代文字を使った碑

神仏に関係する石碑は、村内には随所に見られますが、あるいは村内で一つかもしれないという珍しい石碑を紹介いたします。「神代文字」が使用してあるといわれている、中谷の安江達典さん宅にある石碑です。

この神代文字というのは、どういう文字でしょうか。日本には漢字が伝えられる以前から独自の文字があった」という説があります。それが神代文字です。その中には、その地域などによって「日文」「天名地鎮」「阿比留」などの種類があり、この説は、鎌倉時代からあったとされ、特に江戸時代には、国学者たちの間で盛んに唱えられたものとか。

この石碑の解説にあたった伊藤重雄さんは、こんな話を聞かせてくれました。「村内でいろいろな石碑を見てきましたが、猪毛（安江達典さん宅の屋号）の石碑を見せてもらったときは、さすがに驚きました。江戸時代のころの「くずし字」とも違いましたし、あるいは朝鮮語だろうかとも考えましたが、それとも違う。県立図書館や史料館などに問い合わせても期待する答えはありませんでした。とにかく全く読めないので解説



伊藤重雄さん (平)

をあきらめかけて三、四年後に、別の調べものをしていて「明治五年見聞録（村雲蔵多日記）」を見ていた時、同じ文字を発見したので。その日記にはアイウエオ順に同じ文字が書かれており、それによれば碑文の文字は「ハニヤスヒメノカミ」と書かれていることがわかりました。この神様は、土の神であると同時に肥料の神、粘土の神ともいわれているものです。猪毛の家は、江戸時代から続いているそうですから、今の地を開墾された（先祖さまが田の神として祀ったのではないのでしょうか）。



神代文字がある石碑

走り続けて400号

広報ひがししらかわ

「およそ、村づくりと云い郷土の向上発展は、心身共に健康な村民として、常に村政に対し、深い関心を持ち、その立場々々において一村は一家の如き円満なる運営がなされることによつて、自らその目的が達せられるものと信じます。」これは、昭和三十一年三月に発刊された「広報東白川」創刊号の冒頭にある河田勘市元村長の発刊のこゝとばの一部です。

発刊以来三十八年を経て、この十月号で四百号を迎えた広報ひがししらかわ。『みなさんに親んでもらえる広報紙』を目指して回を重ねてきましたが、果たして読者である皆さんにどう評価されているのでしょうか。この機会に全世帯を対象にしたアンケートを試みました。

「親しみが持てる」が、
八七・三割

今回のアンケートは、全世帯（七月末現在、九〇六世帯）を対象に実施し、その六二・八割にあたる五六九世帯から回答をいただきました。

まず、家族構成を尋ねた質問には、二人という答えが最も多く全体の二一・九割、次いで三人、六人の順になっており、単身世帯は、六・九割でした。また、家族の年齢構成については、四十歳から六十五歳に該当する人が三四・五割と最も多く、こうした点からも村の家族構成や年齢構成が伺えます。

広報紙に対する親近感については、次ページのグラフ①のように身近なものとして親しみが持てるという答えが八七・三割と圧倒的に高い数値となりました。では、広報紙ほどのくらい読まれているのでしょうか。グラフ②をご覧下さい。最初から最後まで念入りに読むという人が七一・二割。見出しだけ読むという人まで含めれば九割以上の世帯で目を通していただいていることがわかります。また、家族の中で特によく読む年齢層としては、四十歳から六十五歳までが最も多い結果となりました。

読み終わった広報紙の扱いについては、グラフ③のように、「必要なものだけ」という答えも含めれば、何らかの形で保管するという答えが八六・一割を占めました。

見出しで見える村の動き

広報ひがししらかわが昭和三十一年三月十五日に発刊されて三十八年。

これまでいろいろな形で村のできごとを報じてきましたが、ここでは、広報の記事の見出しから村のできごとを振り返ってみたいと思います。

「町村合併について」

昭和三十一年七月 第五号

「大明神バス開通・一日二往復」

昭和三十一年七月 第十七号

「伊勢湾台風のツメ跡 被害総額一億円を超える・全、半壊家屋百九戸」

昭和三十四年十月 第四十号

「おめでとう日本一・健康優良校に神戸小学校」

昭和三十四年十一月 第四十一号

「村営東白川病院完成」

昭和四十年六月 第八十二号

「健康な村づくりに栄光輝く・保健文化賞受賞」

昭和四十年十一月 第八十六号

「ご苦労さん分教場・大明神分校廃止」

昭和四十二年三月 第九十九号

「待望の母子健康センター完成」

昭和四十三年四月 第一一一号

「八・一七豪雨大暴れ・被害総額は三億円を越す」

昭和四十三年九月 第一一五号

「平バイパス喜びの開通」

昭和四十八年十一月 第一六五号

「郷土歌舞伎二十六年ぶりの公演」

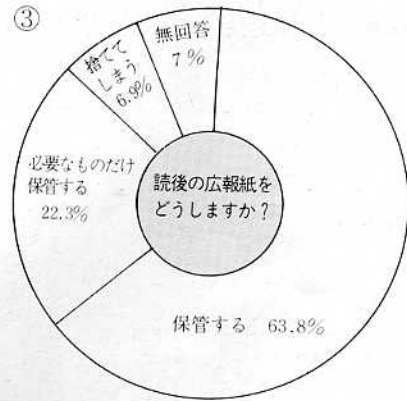
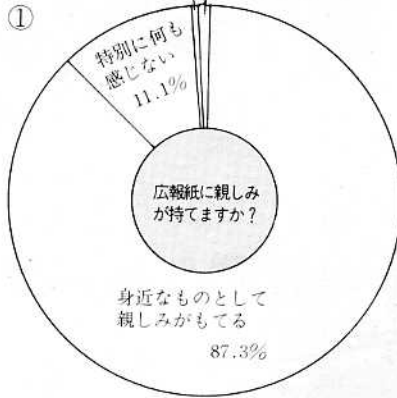
広報アンケート結果

◎ 質問事項

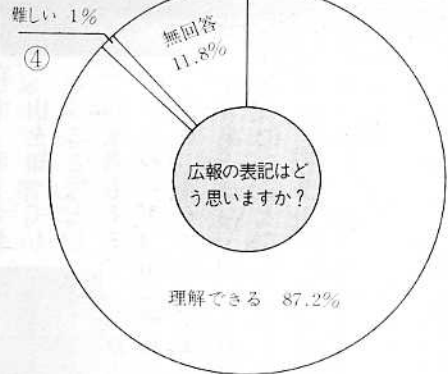
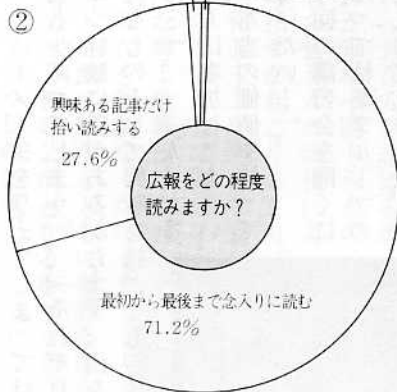
- ・何人家族ですか？
- ・広報紙に親しみが持てますか？
- ・広報紙をどの程度読みますか？
- ・読み終わったらどうしますか？
- ・広報紙の表記方法は？
- ・今まで読んだ中で印象に残っているものは？
- ・こんな「コーナー」が欲しい。
- ・その他の意見

- 対象世帯 … 906世帯
- 回答世帯 … 569世帯
- 回収率 … 62.8%

とつつきにくく親しみを
感じない 0.5% 無回答 1.1%



見出しだけ読む 0.7% 全然読まない 0.5%



みなさんに一層親しまれる広報をめざして

九割以上の世帯で読まれていたという広報紙。特に読まれていた内容については、特集記事、けいじばん、お知らせの順に多いようです。また、内容の中で、文章表現、字句、用語など表記方法については、グラフ④のように理解できるといふ解答が八七・一割を占めました。難しいという解答の中にはその理由として「意見がわかりにくい」「外来語が多い」などが見られ今後改善すべき点だと思えます。

今まで印象に残った記事で最も多かったものは、平成四年六月号の朴葉ずし特集です。これは県広報コンクールで特選を受賞した号です。このほか立村百年特集号や中には、家族や子どもが載ったものという意見もありました。

「こんなコーナーが欲しい」には、リサイクルのコーナーの新設を望む声が多かったようです。

予想以上にたくさんのご意見をいただいた今回のアンケート。心温まる激励からお叱りのことばまで様々な意見が寄せられました。今後は、こうした意見を取り入れながら、より一層皆さんに親しんでいただける広報を目指したいと思います。

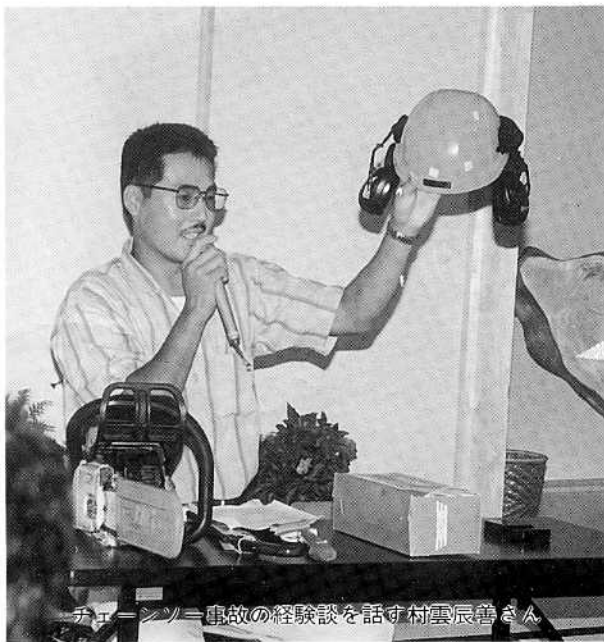
こんな声がありました。

- ・子どもが村外から帰るといつも目を通すので必ず保管しています。
- ・私のようなあまり趣味を持たない者にとって一か月に一度の広報は楽しみです。
- ・カラー写真を使えば一段と楽しさが増すのではないのでしょうか。
- ・身内の者が載るとやはり嬉しいものです。子どもたちの記事は続けて欲しい。
- ・紙面が大きくなったので、綴じるファイルが欲しい。
- ・村で進めている事業がわかるので助かります。
- ・村民全員が参加できるといいですね。
- ・人とのつながりが希薄になっているので一つのことをコツコツやっている人を老若男女を問わず特集してはどうですか。

- 昭和五十二年十月 第二〇四号
- 「ゆつたりした教育の場 東白川小学校・四月七日から授業を始めます」
- 昭和五十五年三月 第二三二二号
- 「村民の誓い、村の花決まる」
- 昭和五十五年一月 第二四〇号
- 「ほ場整備事業がスタート」
- 昭和五十六年四月 第二四五号
- 「白川茶日本一の折り紙・天皇杯受賞」
- 昭和五十九年二月 第二七八号
- 「岐阜部品(株)が本格操業」
- 昭和六十二年四月 第三一五号
- 「日本全国から穂の子村へ大集合」
- 平成元年五月 第三三九号
- 「振り返る歴史は未来へのスタート台」
- 「振り返る歴史は未来へのスタート台」
- 立村一〇〇年記念大会」
- 平成元年九月 第三四六号
- 「ふるさと企画設立 これからが経営手腕の見せどころ」
- 平成三年二月 第三五九号

第1歩は“山”を知って もらうこと

—林業グループの新しい試み—



チェンソー事故の経験談を話す村雲辰善さん

村の面積の中で森林の占める割合が九〇割を超える東白川村。
 “先人から受け継がれた貴重な森林資源を守るために一人でもたくさん
 林業後継者を、仲間を育てたい”。現在会員三十一名、平均年齢三十二歳、
 県下でもっとも若い東白川村林業グループの皆さんが主催した「森林につい
 ての講習会」が去る九月十八日もれびの館において開かれました。

参加者は予想を 超えて58人

「堅いイメージを与えてしまっ
 参加者が減ってしまう」。それぞれ
 知識や経験に差があるからまず、山を
 身近なものとして興味を持ってもらえ
 れば」。一人でも多
 くの人に参加してもらい、
 山の本当の価値を知って
 もらいたい。」



樹木説明をする稲垣さん、牧野さん

ループの熱意が予想を超える参加者数
 となって現れました。

山の良さばかりでなく 恐さも伝わった体験談

「ズボンで見えなかったですが、あ
 の時、自分のケガを見ていたらあんな
 に冷静にいられなかつ
 たと思います」。と自
 らの生々しいチェン
 ソー事故の体験談を話
 したのは、下親田の村
 雲辰善さん。
 今回の講習会で好評
 となったのは、何とい
 っても若手グループ員
 による発表です。

今回の講習会を開くに
 あたって林業グループの
 皆さんは考えました。そ
 して、テーマを
 “山を知って
 らうこと”とし
 て対象者もあえて“後継者”
 にこだわらず“山に興味のあ
 る若者”ということに
 を募集。また、内容も高度な
 技術的なことなどはなるべく
 避け、若手のグループ員によ
 る体験談や樹木当てクイズな
 どを盛り込み誰でも気軽に参
 加できるように工夫しました。
 迎えた当日、参加者は女性
 七人を含む五十八人。林業グ

“山仕事”におけるケガの話はもち
 ろん、マムシや蜂などに遭遇したとき
 の体験も交え、単に“山の良さ”を強
 調するだけでなく、“山仕事は決して
 楽じゃない”ことを発表しました。
 また、樹木説明は、牧野知幸さんと
 稲垣進さんが担当。クイズ形式で、ス
 ライドを交え、例えば、ヒノキとサワ
 ラとアスナロ、ツバキとサカキなど葉
 や枝だけでは、区別しづらい樹木など
 の見分け方を説明しました。



盛り上がりを見せた懇親会のバーベキュー

“次回は実地を” 参加者の声

今回の講習会では、主催者側がただ
 一方的に話すだけでなく参加者の生の
 声を聞くために分科会が設けられまし
 た。これは全体ではなかなか話せなく
 ても、小人数ならいろいろな意見がき
 けるのでは、と発案されたもの。
 五つの分科会に分かれた参加者たち
 からは“次回はぜひ実地体験を：”、
 “チェンソーなど器具の扱い方を知
 りたい”、“山境がわかれば：”とい
 った前向きな意見が多く出され、
 これを受けて主催者側の林業グルー
 プの皆さんは「確実な手ごたえがあつた。
 次回はこうした意見も踏まえながら実
 地体験などを取り入れた会を計画した
 い」と熱っぽく話してくれました。

はなのき会館初舞台、郷土歌舞伎新時代へ

芸題は、復活第一回公演

と同じもの

「舞台がとて広く明るいし、昨年までのように一部仮設ではないので安定していても演じやすかった」と話してくれたのは、四年連続出演した長谷川正利さん。

九月二十五日、はなのき会館において「第十八回郷土歌舞伎公演」が開かれ、五百人を超える皆さんが来場。四十八人の役者の皆さんの演技に万雷の拍手が起こりました。昭和五十二年熱心な愛好者の手によって復活を遂げた郷土歌舞伎。今回は、舞台を新装なつたはなのき会館へ移すとともに歌舞伎保存会発足後、初の公演となるなどまさに初めてづくしの公演。

はなのき会館の「こけら落とし」ということもあって、芸題は復活第一回公演と同じものが演じられ、また、顔見せ興行の際祝儀として演じられる「寿三番叟」を中学三年の安江栄里さん、栗本雅世さん、山下奈緒美さんが艶やかに舞ったほか、新藤秀逸県議会議長、桂川村長、古田村議会議長や各

種団体長の皆さんなど十人で演じられた「お目見得だんまり」などの特別出演もあり会場を大いにわかせました。

子どもたちは十三人、先生方は六人が好演

郷土歌舞伎といえは、すっかり呼び物となっているのが子どもたちのかわいらしい演技。今回は、小学校二年生から中学校三年生まで十三人が熱演。中でも「幕妖術龍夜叉姫」筑波山岩屋の場は、子どもたち十人だけで演じたこともあり、ひととき大きな拍手が贈られていました。また、これもすつかりおなじみとなつた先生方の



「寿三番叟」の一場面

親子で初めての共演

「子どもと一緒にということこそちからのほうばかりに氣をとられて、いつもの倍以上に神経を使った感じですね」と話してくれたのは、安江一成さん（大明神）。今回の公演で安江一成さん・彩佳さん親子が、「奥州安達ヶ原 三段目」袖萩祭文の場」で母子役として初競演しました。郷土歌舞伎の看板役者のお父さんの影響で彩佳さんが初めて舞台上上がったのは、小学校一年生だった三年前。これまでは、子ども歌舞伎などへの出演がほとんどでしたが、今回は、お父さんと一緒にということもあって大喜びの出演となりました。



「奥州安達ヶ原」長谷川正利さん

「幕妖術龍夜叉姫」(左から)田口友子さん、古田榮さん、安江栄代子さん、今井由美子さん

「幕妖術龍夜叉姫」安江栄里さん、山下奈緒美さん



安江一成さん、彩佳さん

おし せ ら

こんにちは
社協です

十月一日から
赤い羽根募金運
動が展開されて
います。この募
金は一般募金と
歳末たすけあい
募金とに分けら
れ、現在皆さん
にご協力をいた
だいている一般
募金は、おもに
福祉施設、福祉
団体の事業等に
使われます。
組長さんを通
しての封筒募金
のほか募金箱で
も行っています。
ご協力をお願
いします。

桂川収入役が退任、後任に高木氏

役場職員人事異動

九月の村議会定例会で、任期満了に伴う助役には藤井茂樹さんが再任され、また、村職員として四十一年の長きにわたり村の振興に誠意をもつて尽くされた桂川直衛収入役が九月三十日付で勇退され、その後任として前建設課長の高木孜さんが就任されました。



前収入役
桂川直衛さん

退任のごあいさつ

この度、東白川村収入役を退任しました。

昭和二十八年に本村職員として奉職してから今日まで四十二年、村民の皆さんに公私ともに格別なご指導とご厚情を賜り、その間大過なくその職責を果し得ましたこと、心から厚くお礼申し上げます。今後は一村民として村の発展を願うところであります。



新収入役
高木孜さん

就任のごあいさつ

この度、桂川前収入役さんのご勇退により、その後任としてご選任いただき、重責を勤めさせていただきますことになりました。

経験、人格ともに未熟な私ではございますが、東白川村が二十一世紀に向けて更に前進を続け、一層飛躍するため、心を新たに頑張る所存でございます。なにとぞ、皆様のご叱責、ご指導をお願い申し上げます。挨拶といたします。

役場人事異動

なお職員異動、昇格は次のとおりです。
十月一日付（一）内は前職。

- 異動■
- ▼建設課長―村雲義英（建設課長補佐兼土木係長）▼教育委員会事務局教育係長―安江雅信（林務商工課振興係長）▼安江正大（教育委員会事務局教育係長）▼林務商工課振興係長―今井俊郎（新採用）
- 昇格■
- ▼林務商工課長補佐兼林務係長―渡辺昭彦（林務商工課林務係長）▼建設課長補佐兼水道係長―安江誠（建設課水道係長）▼保健福祉課課長補佐、社会福祉協議会派遣―安江吉信（保健福祉課係長、社会福祉協議会派遣）

赤い羽根共同募金

ひとりひとりの優しさは、社会の資産です。



保健婦だより

「食欲の秋」に向けて、ちょっとひと工夫 脂肪の取り過ぎを防ぐ調理法

①肉の脂身など目に見える脂肪は、取り除いてから調理する。

②肉は「煮る」「炒める」より「蒸す」「網焼き」の方が良い。

③スープやシチューは、調理後冷蔵し、二、三時間経ってから表面に凝固した脂肪をすくい取るよう心掛ける。

④電子レンジや焦げ付かないフライパンなどを上手に利用して、できるだけ油を使わないように心掛ける。

⑤調理中に出た脂は、こまめに取り除く。

国民年金にご加入の自営業者の皆さんへ

自営業者の皆さんの国民年金（老齢基礎年金）は、ご夫婦で十二万円程度となつていますが、新たに国民年金基金に加入することにより、月額二十五万円くらいまでに年金を上積みすることができます。

国民年金基金は、「国民年金法」に基づく自営業者のための公的制度。国民年金と国民年金基金のセットでサラリーマン並の年金を確保して、安定した豊かな老後を実現しましょう。

国民年金基金についての詳しいお問い合わせは、岐阜県国民年金基金（二五〇〇岐阜市数田東一―二―二岐阜県建設会館二F☎フリーダイヤル〇一二〇（三五五）三五四）までお尋ね下さい。

岐阜県最低賃金が改正されました

岐阜県労働基準局では、県内で働くすべての労働者に適用される「岐阜県最低賃金」を十月一日から改正しました。改正後の最低賃金は、月額四千八百七十七円（改正前四千七百三十三円）、時間額六百三十三円（改正前五百八十八円）です。この最低賃金は、臨時、パートタイマー、アルバイトなどの雇用形態に関係なく、すべての労働者に適用されます。最低賃金の対象となる賃金は、通常決められた賃金に限られ、ボーナス等臨時の賃金、休日、時間外などの割増賃金及び通勤手当（交通費）、家族手当、精皆勤手当は対象となりません。なお、著しく労働能力の低い方などで、岐阜労働基準局長の許可を受けた方については、最低賃金の適用が除外されます。詳細は、岐阜労働基準局賃

金課（岐阜市金竜町五一―三）☎〇五八二（四五）八一〇一）または、最寄りの労働基準監督署にお尋ね下さい。

花フェスタ'95「フラワーメイツ」の募金について

花フェスタ'95実行委員会では、会期中の会場内におけるサービス業務などに従事いただく「フラワーメイツ」を募集しています。

【勤務条件】

〔休日〕五勤一休〔勤務期間〕平成七年四月二十六日～同年六月四日（事前研修八日程度あり）〔勤務時間〕八時

三〇分～一七時三〇分〔雇用〕（株）国際企画の期間契約社員

【待遇】

〔日給〕七千二百円〔交通費〕月額千五百円以内の実費支給〔その他〕ユニホーム貸与、労災保険、障害保険加入

【資格】

・平成七年四月一日現在十八歳以上の女性・高校卒業程度の学力を有する方・原則として公共交通機関で通勤可能な方・事前研修を含む全期間勤務可能な方・国籍不問

※詳しくは、フリーダイヤル〇一二〇（七〇〇）一〇二までお尋ね下さい。

けいじばん

【戸籍】（敬称略）

●誕生おめでとうございます

（黒淵）= 安江 正隆 } 梓（二女）
真里子

●いつまでもおしあわせに

{ 村雲 和裕（平）
今井 邦子（陰地）

●おくやみ申し上げます

安江啓一郎 78歳（神付）

【善意】

【社会福祉協議会へ】

現金13,000円=有瑠美会（研修会参加者13名）
現金18,800円=立正校成会中津川協会加茂支部
東白川地区

現金25,000円=匿名

現金1,130円=匿名

【せせらぎ荘へ】

ホットプレート1台=東白川郵便局

【東白川小学校へ】

児童用図書4冊=寺坂五郎（下野）

書額1枚=野村 正（大垣市）

鉛筆600本=J A美濃加茂東白川支店

【五加保育園へ】

栗30*.=安江辰也（宮代）

TOPICS

汗

若さいっぱい!
二百三十人がさわやかな汗

敬老の日の九月十五日、恒例の「老人まつり」がはなのき会館を会場に行われ、二百三十人を超えるお年寄りの皆さんがさわやかな汗を楽しみました。

今年で二十回を数えるこのまつり。昨年までは、中学校体育館で行っていましたが、今年も新装なったのはなのき会館で開催。内容は、平場席を利用したクラブ対抗の玉入れや輪投げなどの軽スポーツ、舞台を使つての演芸発表と盛りだくさん。中でも演芸発表は、クラブごとに工夫を凝らし安米節あり炭坑節あり東白川音頭なども飛び出して会場は、大盛況となりました。

今回の参加者中、最高齢者は、男性が九十四歳の今井良吉さん（神付）、女性は八十八歳の安江小ずへさん（大明神）。このお二人に加え、

九十歳以上の四人の方に花束が贈られました。

また、昼食には、これも恒例となつた食改協の皆さん手作りのお弁当。お酒もちよびり入って楽しいひとときでした。



恒例の源平玉入れ

祭

秋まつりを彩つた
雅びやかな稚児行列



華やかな装束を身につけて笑顔の道中

九月二十三日の神田神社秋の例祭に子どもたちのかわいらしい稚児行列が行われました。

参加したのは、希望者によるもので、二歳から保育園児までの子どもたち四十三組。それぞれに冠をつけ、お化粧をし、装束を身にまとつた天童姿で、中学校体育館前から神田神社前までの約一・五キロの道のお父さん、お母さんやおじいちゃんおばあちゃんたちと一緒に練り歩きました。

平成元年に五十五年振りに行われたこの稚児行列。その時の反響が大きき、今回の実施となつたものです。

中には、お宮に着くころに、少々疲れたのかお母さんの背中でゴールインした子の姿もありました。



神社でお祓いを受けた後、お守りが受与されました。

川

「白川を美しく」
老人クラブ社会奉仕の日



「自慢の清流白川を美しく守っていきたい」九月二十日村内の老人クラブの皆さん約二百人が参加して白川の清掃奉仕作業が行われました。この日は「社会奉仕の日」。これは、九年前から実施しているもので、九月十日から二十一日までの「老人保健福祉週間」の中でこの日を選んで、地域への感謝の気持ちを込め、環境美化活動に取り組む日として全国老人クラブ連合会が定めたものです。クラブの都合などもあつてこの日は、村内七団体のうち五団体の参加となりましたが、白川沿いを中心に草刈り、

ガードレールの清掃、空缶拾いなどを午前中をかけ実施。

終了後の慰労会では清掃後の川沿いで宴を囲んだ団体の姿も見られました。



神生地区のようす

話題集まれ!

?

まさか恐竜の卵…
畑に生えたオニフスベ

周囲六十一坪、色は、白色と茶かつ色、触った感じは柔らかく、見た目は、ドッジボールかハンドボール…。

上親田の大坪信也さん宅裏の茶畑に珍しいオニフスベが生えました。

このオニフスベ、ホコリタケ科のキノコで図鑑で調べると「初めは白く、のちに黄かつ色、さらに紫かつ色となり、古綿状になる。夏・秋に竹やぶによく発生する」とあります。

大坪さんは、オニフスベについてこんな話をしてくれました。「正式には、オニフスベというようですが、こころへんでは「首つなぎ」とか「ホコリタケ」といわれていたものです。二十年くらい前に一度生えてそれ以来ですね。そのときのやつはもつと大きかった。中味はちようどスポンジのようになっていて、茶色になつて乾燥したこのスポンジのようなものから出る粉は、傷薬の妙薬といわれたものです。首を切られてもこの粉を付けておくと元どおりに直つてしまふといわれるほどでそこから「首つなぎ」と名付けられたのでしょう」。



見た目はボールそっくり

車

送迎はこれで安心
優秀ドライバーに今井さん



安全運転で今日も出発

九月二十九日、美濃加茂市の加茂自動車学校で行われた「シルバー・ドライバー・コンテング・コンテスト」で、日向の今井秋男さんが参加者二十名中、第三位に入賞しました。

このコンテストは、加茂交通安全協会と加茂署が「秋の全国交通安全運動」の一環として行ったもので、六十歳以上のドライバーを対象にペーパーテストと、仮免許試験コースを走る実地試験を実施したものです。

現在、せせらぎ荘の送迎車を運転する今井さん。「教官を横に乗せて走ることなど久しぶりで緊張しましたが、入賞できて本当によかったと思います」と喜びの声を聞かせてくれました。

また、高齢者の交通安全について駐在所の小森邦広部長に伺ったところ「村内では、車を運転されるお年寄りには安全運転の人が比較的多く、マナーが守られています。単車に乗られる人は、ヘルメットをかぶらない人が多く見受けられますので、自分を守るものとして着用し欲しいと思います」と話してくれました。

謎

エツ畑の中に靴が…
今年の夏のミステリー

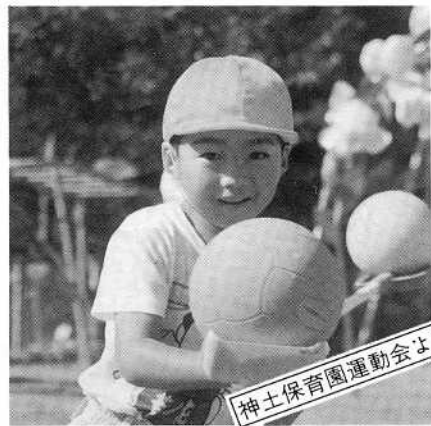
その事件が始まったのは、鮎の解禁のころ。日向の村雲孝平さんが鮎かけ用の新しい靴を買い、一度使った家の前に干して置いたところ、見えなくなっていました。数日後、靴は裏手の茶畑で発見されましたが、それからというものどこのものか、誰のものかわからない革靴やズック靴などが畑に置き去りにされるようになったとのこと。村雲さんが近所でこの話をしたところ、今井眞平さんのところでも、安江正男さんのところでも、安江友一さんのところでもその付近六、七軒で同じような事件が起きていることが判明。はたしてこの愉快犯の犯人は…。

「友一さんとお孫さんの話では、トウモロコシとズック靴をくわえて畑へ向かうキツネを見たということから、おそらくキツネの仕業でしょう。こんなことは初めてやし、何か気持ち悪いので靴をそのままにしています。キツネが持ち帰って子ギツネのおもちゃにでもしているんじゃないか」と村雲さん。

人騒がせなキツネのお話でした。



茶畑に放置された靴



神土保育園運動会より

今月の笑顔さん

みんなが公園…のよつたよつた入ージ

「関東地区東白川中学校同窓会」を計画中

東京東白川クラブ 藤井昭次

記録的な猛暑も、お彼岸の訪れとともにようやく秋らしくなってきました。

今年の夏は、東白川村のお誘いで「里帰り交流会」に出席し、大変お世話になりました。ありがとうございました。

さて、私たち東白川クラブでは、若い方々の入会を促進するため、現在「第二回関東地区東白川中学校同窓会」を開こうと計画準備中です。第一回同窓会は、昭和五十九年六月に開き、五十二名の同窓生が集い、この時の参加者が現在の東白川クラブの中核を占めています。この時には、昭和五十三年発行の東白川中学校三十年史をもとに名簿を作成し大助かりでした。聞くところによると、中学校も建て替えの時期にあるとか。これを機に第二回を盛大に行いたいと役員一同で話し合っています。

そこで、関東地区で働く方々のご家族、ご友人、学校関係の皆さま、若い人たちのご住所をお教えいただけないでしょうか。お願いします。（連絡先）〒一八三東京都府中市若松町二一八一一東白川クラブ事務局安江富士夫宛。

お便り



十月、時雨月、秋冷、彼岸花。真つ赤なヒガンバナは、夏から秋へ移り変わる季節の信号のようですが、その球根をすりおろして貼ると肩こりや関節痛に効くといわれます。

このように道ばたで見かける草花には多くの薬草が含まれています。

代表的なのはオオバコ||鎮咳、去たん、利尿効果。キキョウ||鎮静解熱のほか若芽をアク抜きして油炒めなど。クマザサ||健胃。ケイトウ(鶏頭)||止血。サザンカ||強壯、利尿。

さて「ヘクソカヅラ」という蔓性の植物があります。葉や蔓をちぎると、もう臭いの何の…の薬草。名前に似ぬ効能です。神無月、稲刈り、運動会。



職場から

ライスセンター

「昨年は、冷夏で日照不足となり、収穫量が落ち込みましたが、今年は心配していた水不足の影響もほとんどなく豊作です」と話してくれたのは農協の安江寛さん。今月はライスセンターを訪ねました。

平成元年に村の水稲耕作機械化一貫体系を担う施設として誕生したこのライスセンター。機械化営農組合による刈り取りで運ばれたもみを乾燥し、もみすりをして玄米までにするこの施設。今年は例年より一か月近く早く餅米から始まり、ヤマヒカリを最後に今月末までには一年を終了する予定です。一年のうち稼働期間は約二か月。現在は、三ノまで収納できる乾燥機六基をフルに稼働し、急ピッチで作業が進められています。



▶安江郁斗くん
(元樹さん・郁さん
二男||中通)



▶小池崇郎くん
(穀さん・万智子さん
三男||大沢)

2 ツーショット 新婚さん



青山昭広さん・知美さん(平)

秋は結婚式のシーズン。今月は、十月九日に結婚式を挙げられた平の青山昭広さん、知美さんご夫妻を紹介いたします。

交際を始めて約一年半でゴールインとなったお二人、共通の知り合いからの紹介がその始まりでした。

「すごく感じのいい人だった」とそのときの第一印象を話してくれた奥さん。お二人とも付き合い始めて半年後には結婚を意識しはじめたとのこと。

奥さんのご出身は、益田

今月のことば

遠くで想うと涙が出る。近くで見ると腹が立つ。お母さん!! 愛してるよ。

長井英里(石川県 43歳)
(福井県九岡町編・日本) 短い母への手紙より

郡金山町。村を初めて訪れたとき特別な驚きはなかったそうです。

「付き合っていくうちにだんだん優しさにふれて」と話す奥さんに、「自分になりものを持っている人だった」と奥さんを評するご主人。二人とも子どもが大好きで、ともに男の子二人、女の子一人の三人がご希望。

「うちは商売をやっているから、いつも笑いの絶えない明るい家庭を作ってほしい」と話してくれた素敵なカップルです。



「神土村の西に所在する「洞」が地名となったものと考えられている。洞は窪地を意味し、その奥は行き詰まりとなる地形を指す」(「ふるさとのことば」より)。

位置と地形がその地名の由来となった西洞。ここに「大蛇と半九郎」という伝説があります。「西洞地内の本洞」というところに「池ヶ尾」という尾根があり、その中腹に古い池の跡がある。ここにその昔大蛇が棲んでいた村人から恐れられていた。ある時りヨウブ取りに行った娘が大蛇に襲われ、その家族が加舎尾に住んでいた半九郎に助けを求めたところ、半九郎は、鉄砲で大蛇に弾を一発見舞った。大蛇はのたうち回り、そのまま木曾山方面へ逃げ去った」(参照…「新編東白川村誌」)。

西洞には今も「蛇抽」「引尾」等関連する地名が残っています。

図書室発・あなたへ

人が何かを始めるのに遅すぎることはないのです。人生八十年、生きがいのない絶望の日から逃れるためにひとりスベインへ……。

言葉も分からない異国の地で「普通のおばさん」の泣き笑いの体験記はあなたに勇気と感動をあたえてくれるでしょう。

女性の時代にふさわしい一冊です。



女ひとりロンドンを駆ける
古勝 信子著

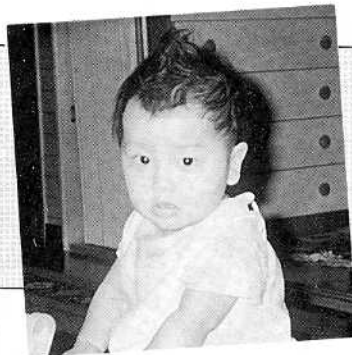
ホットアングル



「おみなえし」
秋の七草の一つおみなえしは、昔は道端などで、いくらでも見ることができた。しかし、今ではほとんど見当たらない。数年前種を採って苗を育てて、日向本道の道端に植えたら、こんなに見事に咲きました。〔桂川政一さん(日向) 寄稿〕



▶安江祥浩くん
(健郎さん・敏美さん
二男(日向))



わが家のスター

広報文芸

俳句 狂俳

俳句

秋風の墓地に見つけし知人の墓
追悼す汗の玉串平和館
束ねつ、咲くには遠き菊を待つ
昔より溪流岩這ふ五介滝
このみちや祈り忘れず神無月
西爪の皮バクリと唾へ池の鯉
夜の雷雨上りて今日は白露なる
安静の窓に星空虫の声
土砂降りの晴れて輝やか田の黄金
草刈りも伴奏の中鎌をとぐ
父恋し終戦記念日五十回
コスモスやあせし軍服平和館
国道はこの田と決り碑を抜く
大早り湖底の古里現われる

日向 安江一滴水
栃山 安江市助
加舎尾 新田義男
栃山 桂川喜郎
平 安江武子
平 今井統子
中谷 田口耕作
中通 村雲みか子
西洞 河田あや子
曲坂 菊田清美
日向 今井美百合
日向 田口秋映
日向 田口秋映
宮代 安江奎一

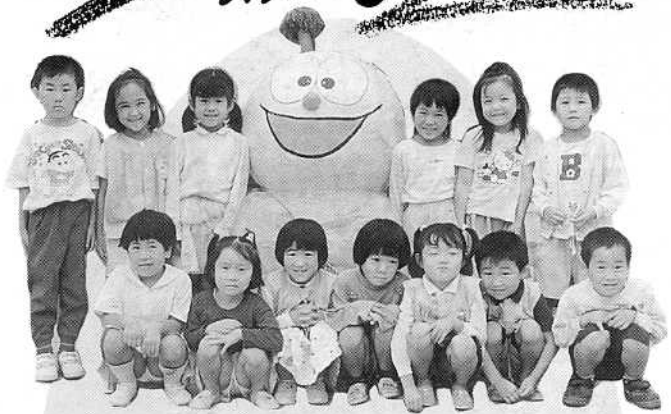
狂俳

朝顔にむかいてもの云ふ夕べかな 平 安江すみよ
朝風や紅白湧き立つ秋桜 西洞 河田重喜

猛 暑 犬のはき出す舌長い 日向 田口秋映
◎泣きながら 棺に別れの花入れる 日向 田口秋映
◎泣きながら けんかに負けて坊帰る 宮代 安江奎一
うきうき 自慢の料理で客を待つ 西洞 河田無声
ばんやり 大石敵をあざむいた 日向 田口秋映
◎振り返り 思い出の宿後にする 西洞 河田無声
猛 暑 中元に湧水送る 宮代 安江奎一
泣きながら 親の情を子は知らず 日向 田口秋映
ばんやり か、あの命日忘れてた 日向 田口秋映
ばんやり 助手席がハンドル叱る 西洞 河田あや子

投稿は奇数月の二十日までに、俳句は西洞河田重喜宛・狂俳は陸地安江末吉宛までお寄せ下さい。なお、今回の狂俳の題は「おだてられ」秋の雲「泣くにも泣けず」です。

発表わたしの作品



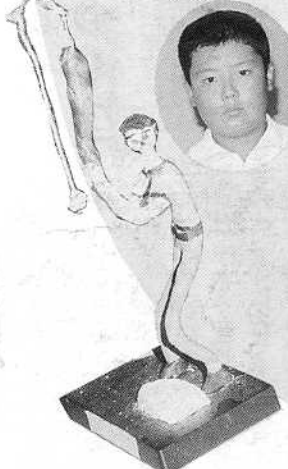
▲きょうどうさくひん「コロスケ」
越原保育園 ばらぐみのみなさん



▲「こおろぎ」
東白川小学校4年生
安江景子さん(大口)



▲「くじらのあくび」を読んで
東白川小学校2年生
田口有香さん(平)



▲「野球する人」
東白川小学校6年生
今井克典さん(宮代)



▲「おしろ」
東白川小学校3年生
交告明紀奈ちゃん(柏本)

我が家の倉庫に野良猫が一匹住み着いた。住み着いたからには野良猫ではあるまいが最初は野良猫であった。▼我が家のまわりに夫婦者のカラスが居る。夫婦であるから二羽で時どき鶏の卵を持ち去って食べてしまう。▼近ごろ鯉の池に、何という鳥か羽を広げると一メートルもある水鳥が、飼をとりにつけてくる。小さな鯉が犠牲になっている。小さめの鯉が犠牲になっているようだ。▼始めのうちは「コラッ」と大声をあげて追っばらつてみたが、それもアホらしくなって静観を決めた。込んだら、よくしたもので猫はこちらを見て見ぬ振り。目の前を悠悠と通り過ぎる。カラスは夕チの悪いいたずらをしなくなった。▼水鳥も毎日ではなく、腹が減った時だけやって来る。気がついたらいっつの間にかあれほど騒がしかったネズミが居なくなった。倉庫をめぐらに貸してやっていると「一宿」(一飯は無し)の恩義にしては義理固いことではないか。

(F)



我が家の倉庫に野良猫が一匹住み着いた。住み着いたからには野良猫ではあるまいが最初は野良猫であった。

広報ひがししらかわ 10月号 '94.10.15
発行 東白川村役場 ☎0574783111
岐阜県加茂郡東白川村神戸548
編集 企画財政課 企画財政係
印刷 下呂印刷株式会社